

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	百貨店（販売促進担当） 衣料品専門店（経営者）	販売量の動き 単価の動き	・イベントや催しでの販売数量の動きがやや良くなっている。 ・前年と比べてアウターや単価の高い商品が大きく販売をリードし、売上にも相当貢献した。
	変わらない	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・売上は前年比で多少上昇しているが、単価の高いものを購入する人やまとめ買い、衝動買いをする人はめっきり少なくなっている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客が安い物を買おうとしても、安い中国産の商品が店頭にはほとんどないので、やむなく高い国産品を買うことになっている。そのため、景気の悪さが下げ止まったとか、売上が上がったといっても、実際はそれだけではない。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・前月同様、たばこ以外の一般品売上が前年割れで、明らかに一般品の買い控えが顕著である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・法人の出張を主力としている航空券を利用した東京へのビジネスバック商品や海外へのビジネスでの航空券は伸びている。しかし、個人の旅行需要は減っている。不景気感や株価の下落が海外旅行をけん引していたシルバー層の旅行意欲を減退させており低調である。ただ、今年の年末年始は大型連休になるため、海外旅行、国内温泉旅行などの申込は例年並みである。
		タクシー運転手	お客様の様子	・客の様子や実車数を見ると、3か月前とほぼ変わらず、全体的に低迷している。
	通信会社（支店長）	単価の動き	・最近、景気沈滞から抜け出しているようにも見えるが、民間消費の回復は依然変化がなく、不安定なものである。	
	やや悪く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・平日の来店客はほぼ前年並みで、学生やOL等がそこそこ来て、売上もそこそこになっているが、週末は、ファミリー層を中心に来街客が激減している。売上もそれに比例して、週末を中心に大変厳しい状況になっている。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・店舗の売上が低い。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・前年同月に比べ来客数は若干減った。売上高は食品の催事が好調に推移したものの、ファッション衣料及び美術、呉服などが苦戦したため前年割れとなり、全般的に低調であった。
		スーパー（店長）	単価の動き	・必要な物以外は買わないという節約感が非常に強まっている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価の減少が続いている。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・衣料品の動きは非常に悪くなっており、季節変わりでも消費行動に結びついていない。動きのある期間が短くなっている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・客と店頭で接するにあたり、かつてない程、客の消費心理が冷え込んでいる。景気の先行きが全く見えない不安が消費を停滞させている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・10月は気温も高めであり、秋冬商品の売上が振るわない。特に単価の高い商品の売上が低調である。例えばコートは売上本数で前年の半分にも届いてない。また、内容的にもウール系は実績ゼロであり、単価の低い非ウール系しか売れていない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売先である全ての業態の人が不景気を口にして、台替えの見合わせをしている。夏のガソリン高騰時より、販売は冷え込んでいる。
乗用車販売店（従業員）		お客様の様子	・ガソリン価格は少し下がったが、株価の大幅な値下がりにより消費は慎重になっている。	
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・先月までは車両販売のうち、新車がまずまずの動きで8～9月低迷していた中古車をカバーしていたが、10月は新車、中古車共に大きく前年を割り込んだ。		

		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・度重なる食の問題で、食物に対して過敏になっていることに加え、金融不安や景気後退がささやかれる状況下において、外食するという気分にはなりにくい。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・原材料や原油価格の高騰による商品の値上げは一巡したようであるが、商品単価は上がったものの客単価については上昇の気配が見えない。以前の値上げのときは収入も上がったため消費の向上につながっていたが、今回は収入が増えないこともあり、調整可能な小さい容量への変更等で対応せざるを得ない。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・10月は、もう少し良くないといけませんが、来客数が伸びない。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・レストラン関係の来客数が昼夜を問わず減少している。
		タクシー運転手	単価の動き	・利用回数と単価が伸びない。近距離の利用が多い。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・株価の暴落等市場の激変により来客数が減少傾向で、客の購買志向が抑えられている。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・営業時の客の反応が一層下向きになっている。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来客者の予約状況や単価を見ると景気は下向きである。
		設計事務所（所長）	それ以外	・社員の中で、マイカー通勤から自転車やバイクに切り替える者が多くなっている。
悪くなっている		商店街（代表者）	それ以外	・来客数も単価も客の様子も全て悪い方向に向かっていく。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が少なく、沈滞ムードが高まっている。
		一般小売店【酒】（販売担当）	お客様の様子	・事故米、中国産食品、プライベートブランド等の問題が一時期に重なり、清酒や本格焼酎の動きが極端に悪い。購買者から、原材料や産地についての問合せや文書での確認を求められる事が急増した。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・インテリア、宝飾品、絵画など、単価の高い商品が全く売れない状況になってきている。一般商品も、平均単価がやや低下しているという状況である。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・美術品愛好者も、株価低迷のため購買意欲が減退し、高額商品の動きが極端に悪く、低価格商品でもまとめ買いが減り、販売量が低下している。
		衣料品専門店（経営者）	競争相手の様子	・当社も含め、縮小・閉店が目立つ。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・前年同期と比べて、レジ客数が2割下落している。
		乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・販売目標の見直し計画を立てても、達成には程遠い。
		その他飲食【ファーストフード】（経営者）	お客様の様子	・原材料高騰、運賃高騰、販売価格値上げ等により、来店頻度減少による客数減少や新規客の減少がある。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夜、飲みに出る人が極端に減っている。タクシーを控える人が増えている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・入場者数がかなり減少しており、外国人の観光客も減ってきている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・節約傾向のために来客数が減少し、単価が低く抑えられている。リピーターの来店サイクルも長くなっている。
		設計事務所（職員）	競争相手の様子	・賃金下げ、リストラ、倒産が身近な事業所や同種企業の中で、一段と多くなってきた。今年度乗り越えられるかの瀬戸際との話題が増えた。また、貸し渋り等の影響か、黒字倒産も発生している。
企業動向関連	良くなっている	木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節要因と12月引き渡しの住宅優遇税の関係で、10月の着工数が増加し、12月引き渡しという状況になっている。
	やや良くなっている	食料品製造業（従業員）	取引先の様子	・冬場の需要期が近づき、麺類に動きが出てきており、2～3カ月前に比べると景気は若干良くなっている。
	変わらない			

やや悪くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・百貨店、ギフト専門店からの発注が減っており、問い合わせしてみると、客足の減少、購入単価の低下など、厳しい状況になっている。食品の値上り、金融経済の悪化による逆資産効果や購入意欲の低下が見られる。	
	鉄鋼業（総務・人事統括）	受注価格や販売価格の動き	・順調であった受注量は北京オリンピック時期をピークに減少方向である。それに合わせて原材料・製品価格とも低下に転じており、在庫処分が急がれる。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工場の建設、増設も終わり、現状では何一つ建設的なものはない。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業がほとんどなく、民間も工事が少なく、受注量が全然伸びない。	
	建設業（総務担当）	取引先の様子	・資材価格の上昇が一段落し、一部では低下に転じてきた。中でも鉄鋼関係、生コンは、かなり値下げをしてきており、仕入価格は落ち着いてきたが、全体的にはまだまだ厳しい状況が続いている。	
	通信業（営業担当）	それ以外	・営業活動で訪問している客との会話のなかで、消費に関する明るい話題がまったく無い。大型量販店やスーパーのマネージャー層からも「個人消費の冷え込み」「生活防衛意識の強まり」「消費を控える風潮の定着」などの話をよく聞く。	
	通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・新商品発売前ではあるが、販売数量の落ち込みが大きく、また商品価格もより低価格のものが好まれている。販売数量についてはここ数ヶ月、前月比15%から20%低下しており、増加の兆しが見えてこない。	
	広告代理店（経営者）	それ以外	・原油価格の高騰に伴った資材価格値上げも一段落しているが、世界的な経済危機の余波がどのように影響するか不透明である。不安要素ばかりで、よい要素がほとんど感じられない状態である。	
悪くなっている	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・大型クレーンの中小ユーザーの経営が厳しく、引き合いが減少している。受注分もキャンセルが発生してきている。小型クレーンにおいても、トラック登録台数の減少に歯止めが掛からず、その影響を受け低迷している。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・製造業の中でも、倒産や元金の据置き要請等が数件発生した。	
	公認会計士	取引先の様子	・顧問先の決算状況や試算表の状況を見ると、前年比で17%くらい売上が落ちており、それに伴い、利益もかなり悪くなっている。悪化傾向が全業種に広がってきている。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・現在の景気後退が顕著になる前に新卒の採用予算は成立させている企業が多いので、積極的な営業活動もあり、新卒採用における予算獲得は予測より良い状態となった。
	変わらない	-	-	-
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は、建設業、運輸業等を中心に、ほとんどの産業で前年同月を下回った。特に一般の減少が大きく、正社員をリストラしてパートで補おうとする動きが見られた。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者は3か月前より、12.8%、361人増加した。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年比で10ポイント以上の減少が続いている。
		民間職業紹介機関（所長）	雇用形態の様子	・企業側が採用にあたり、極力採用費を抑える傾向が出てきており、民間の紹介機関よりも無料で紹介を受ける事が出来る公的機関を利用する傾向が増えてきている。
学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数や求人件数が減少している。		
悪くなっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・各企業とも予算の削減を行い、新規採用はストップしている。特に外資系は顕著である。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・ガソリンを始めとする値上がりで消費マインドが冷えているところに、今回の金融危機が重なり、広告活動が停滞している。どの業種でもまんべんなく落ち込んでいる。	